

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	ソフトウェア・Webプログラマ養成カリキュラムの開発と人材育成		
法人名	学校法人 南星学園		
学校名	サイ・テク・カレッジ那覇		
代表者	理事長 遠山 英一	担当者 連絡先	学院長 仲尾次 翳明 TEL 098-865-2800
1. 事業の目的			

沖縄県は、情報通信産業を中核的産業と位置づけ、情報通信産業の振興と集積を進めている。

IT業界においては、第3次沖縄県情報通信産業振興計画や沖縄IT津梁パーク構想といった施策により、ソフトウェアやWebシステムの開発を行うプロジェクトマネージャー、システムエンジニア、プログラマを目指すために必要な技術を習得したIT人材が求められている。

本事業では、業界の求めるソフトウェア・Webプログラミング技術の習得について、プログラミングが初めての若者でも、短期で専門知識・技術を習得させる人材育成カリキュラムの開発が緊急を開発し実証する。

本事業で実施する講座は、プログラミングという新しい分野への就職を希望する若者を対象に、IT業界で必要とされるテクノロジ、ストラテジ、マネジメントなど基礎知識を学ぶ座学と、構造化プログラミングとしてC言語、オブジェクト指向プログラミングとしてJava言語、WebプログラミングとしてHTML、CSSのプログラミング実習を体系的に行う。

講座開設に当たり、受講者満足度60%、受講者の就職率60%を目標に設定し、短期間で日本情報処理検定協会ホームページ作成検定2級、サーティファイ認定試験（Webクリエイター能力認定試験初級、C言語プログラミング能力認定試験3級、Java言語能力認定試験3級）の資格取得を目標にした教育訓練を行う。

また、キャリアコンサルタントと連携して、ジョブカードと履修証明の2つの制度を有効活用して受講生の就職を支援する。

あわせて、メディア教材を開発し、自主的に学習できる教材を作成する。

2. 事業の実施に関する項目

①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）

ソフトウェア・Web プログラミング技術の修得を重点的にした教育カリキュラムを開発した。また、より実践的な教育とするため高度 IT 人材育成機関との連携による授業と、インターンシップ（企業実習）とを併用したカリキュラムを開発した。

- 開設講座 : ソフトウェア・Web プログラミング講座
- 総授業時間数 : 610 時間
- 開設期間 : 平成21年10月1日～平成22年2月26日

(内訳)

<専門分野>

Java 言語プログラミング講座	90 時間
C 言語プログラミング講座	90 時間
Web プログラミング講座	90 時間
インキュベーション訓練	78 時間
高度 IT 講座	36 時間
インターンシップ（企業実習）	152 時間

<教養分野>

IT 基礎（ストラテジ） 講座	20 時間
IT 基礎（マネジメント） 講座	20 時間
IT 基礎（テクノロジ） 講座	20 時間

<試験>

試験	2 時間
----	------

<支援講座>

就職支援講座	12 時間
--------	-------

上記の他、キャリアコンサルタントによるコンサルティングの機会を6回実施した。

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

手法：新聞（沖縄タイムス、琉球新報）や求人誌（ルーキー）に受講生募集広告を掲載
公用掲示板に受講生募集ポスターを掲示
期間：沖縄タイムス（新聞） : 9/18、9/22
琉球新報（新聞） : 9/18、9/22
ルーキー37号（求人誌） : 9/19～10/2

効果：定員10名に対し、14件の応募があり10名を受け入れた。
しかし、今年は緊急雇用対策の講座が多く、応募者人数が少なかった。

③受講者の状況

受講者 10人の内訳は下記のとおりである。

男性9人、女性1人

年齢層は 20代8人／30代2人

いずれも受講開始時点では定職に就いておらず、アルバイトなどで生活しているとのことであった。

2月のインターンシップを終えるまでに、5名の就職先と1名の進学先が決まった。

④受講者の意識調査等

受講者満足度は下記のとおりであり、満足という結果となった。

大変満足：2人（20%） 満足：2人（20%） 普通：5人（60%）

不満：0人（0%） 大変不満：0人（0%）

⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者 10人中、4人が出席時間及び試験の成績が優秀であり、そしてインターンシップの企業実習を受講したので、実践型教育プログラムのジョブカードの職業能力証明書に活用できる履修証明証を交付した。

受講者のすべてが就職希望者であり、キャリアコンサルタントの指導のもと就職活動も行ない、2月26日に終了した。3月2日現在、5人が就職、1人進学、他4人が就職活動中である。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

2月26日に終了したこともあり、就職についてはこれからの支援となるが、現時点で、受講者満足度は60%、就職者数も5人おり、当初設定した目標値に達成したので、講座の目的はほぼ達成したと思われる。

②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおり

1. フリーター等に対するソフトウェア・Web プログラミング技術の教育カリキュラムを完成した。
2. 履修証明書をジョブカードの職業能力証明書とする実践教育プログラムによる教育手法を体系的な整理した。
3. メディア教材を使った、マネジメントの手法であるP D C A サイクルを取り入れた自己啓発型教材を作成した。

なお、ソフトウェア・Web プログラミング技術の教育プログラムについては、豊富な類

題を用意して繰返し学習できるよう、さらなる教材作成の改善が必要であると考える。

③次年度以降における課題・展開

<事業の展開については必ず記載してください。>

ソフトウェア・Web プログラミング技術についての教育プログラムの開発については、一応の完成を見たため、次年度はこれらの成果を活かしたフリーター等を対象とした講座を開設するとともに、蓄積したノウハウを専修学校等の正規課程のカリキュラムとして活用できるようプログラムの見直しを図ることを計画している。

④成果の普及

開発した教材をプログラミング技術の課程を持つ専修学校や高等学校に配付する。

3月2日にサイ・テク・カレッジにおいて、成果報告会を開催した。

今後、体験学習などをとおして、プログラミング教育の普及に力を入れていく。

なお、本事業のために開設したHPのURLを用意する計画をしている。